海に沈むワイングラス型の太陽

撮影日：2004 年 12 月 22 日（冬至）
撮影場所：和歌山県田辺市芳養町（旧・紀南教育研修所）

【解説】　太陽の視直径は約 0.5 度。下の連続写真は、約２分間の現象をとらえたものである。

水平線のやや上方に、あたかも鏡が置かれたかのように光が映って見えることによって、ワイングラス型の太陽となる（写真１～３）。これは蜃気楼現象が関係している。

また、写真２・３では、太陽の形が真円ではなく変形して見える。これは空気層の密度差によって光の屈折が異なることによる。下の写真の太陽はあまり変形していないが、大気の状態によってはかなり扁平な楕円形に見えることがある。

写真をクリックするとＧＩＦアニメが再生されます。

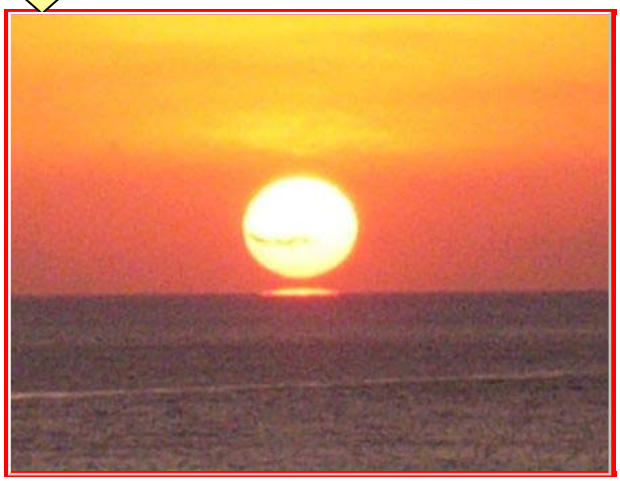

写真１　光球の下に光の照り返しが見え始める。

写真２　光球と照り返し部分が連結し、ワイングラス状を呈している。

写真３　ワイングラスというよりも、金魚鉢をひっくり返したような形に見える。

写真４　半球がやや下に伸びたような形になった太陽。

写真５　光球の周辺部部分がせり上がって見える。

写真６　日没寸前の太陽。条件によっては、頂部に緑色の閃光が見えることもあるという。